令和7年度 学力向上を図るための全体計画

13 練馬区立田柄中学校

関係法規 都教育目標 区教育目標 教育目標

- 1 正しい判断ができる (判断力)
- 2 協力し実践ができる (協力・実践力)
- 3 自他の尊重ができる (敬愛心)

学校・地域の実態 地域・保護者の願い 期待される生徒像

学校経営方針(学力向上に関わる要点)

- ・生涯にわたって学ぶ力を身に付けさせるために、その基礎・基本となる学力を身に付け させる
- ・主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を展開し、指導法の見直し、改善を図る。
- ・ICTを活用した教育を進めるために研修を深め、授業の改善・工夫を図る。

本校における「確かな学力」

本校では学習指導要領に示された基礎・基本を重視し、 次の力を育成する。

- ・読み、書き、計算等の基礎的な知識・技能の力
- ・興味・関心を基にした学ぶ意欲と表現する力
- ・自分の思いを伝えられる表現力
- ・善悪をわきまえた行動がとれる判断力
- ・相手の気持ちを理解し自分への問いかけができる 思考力
- ・ものごとの原因を考えられる課題発見能力
- ・ものごとの対応を考えられる課題解決能力

道徳教育の指導の重点

- ・人間としての生き方や価値 感を体得させる。
- ・道徳的な心情や判断力および実践する力を育て、生命を大切にする心や思いやりの心などの倫理観や規範意識、社会性を育成する。

特別活動の指導の重点

- ・人間的な触れ合いを重視し 豊かな心を培う。
- ・生徒会活動、学校行事を通して主体的に課題解決に努める自主的・実践的態度を養うとともに、連帯感や忍耐力を養う。

生活指導の重点

- ・基本的な生活習慣を身に付けるとともに、集団や社会の一員として生活のきまりを守り、責任ある行動がとれるようにする。
 - 「いじめ問題対策委員会」 を中心とした組織的な対応 を徹底する。

総合的な学習の時間の指導の重点

各教科の指導の重点

・生徒が自ら課題を見付け、そ

の解決を目指して最後までや

り遂げる態度、能力を身に付

・主体的・対話的で深い学びを

意識した授業展開を実践し、

学ぶ意欲を向上させる。

けさせる。

- ・生徒が、自ら学び、自ら考 え、主体的に判断し、問題 を解決する資質や資料活用 能力を育てる。
- ・課題設定能力、課題解決能力、表現力、コミュニケーション能力等を育成し、生徒の主体性を育む。

キャリア教育の指導の重点

- ・生徒が自らの生き方を考え 望ましい進路選択ができる 能力を意図的・計画的に育 てる。
- ・体験的な学習を通して、望ましい職業観、勤労観を育成する。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の 工夫

- ・1人一台端末を活用し、個に応じた授業展開を実践する。
- ・eライブラリ等を活用した演習を通し、繰り返し基礎学力の定着を図る。
- ・実験・実習を多く取り入れ、体験的な指導の充 実を図る。
- ・生徒の主体的、対話的 で深い学びが行われる よう指導を工夫する。
- ・習熟度別少人数授業を 中心に、補充的な学習 や発展的な学習を取り 入れる。

教育課程編成上の工夫

- 田柄タイムを設定し、 読書や自主学習を実施 し、生徒の思考力や落 ち着いた学習態度を育 成する。
- ・総合的な学習の時間で は外部人材を積極的に 活用した教育活動を実 施する。
- ・学校図書館の活用を促進し、読書に対する生 徒の意識を高める。

校内における研究や 研修の工夫

- 新学習指導要領の理念 実現に向けて、指導力 向上を図り、適切な評 価を行うための研修を 実施する。
- ・主体的・対話的で深い 学びを取り入れた授業 研修を行う。
- ・ICTの活用を活かした授業研修を推進すよる。
- ・スクールカウンセラー の知識や技能を積極的 に学び、教員の指導力 の向上を図る。

評価活動の工夫

- ・教科部会を開き、教科 の評価規準等について 共通理解を図り、その 客観性を高める。
- ・評価規準を明確にし、 基礎的な技能を習得さ せる。
- ・授業における生徒の学習状況を把握するために振り返りを丁寧に行う。
- ・英語・数学・漢字検定 を校内で実施し、生徒 の学習意欲を高める。

家庭や地域社会との 連携の工夫

- ・学校と家庭が連携して 生徒の指導にあたれる よう、保護者が子供の 学習場面に立ち会う機 会を設定する。
- ・地域への職場体験学習 や地区祭等への参加を 通じて、地域と連携し た教育の充実を図る。
- ・学習活動の基盤として の生活習慣や健康づく りに家庭の協力を得

小中一貫教育の視点

- 「目指す15歳の姿」 の実現に向けて、校区 別協議会で協議を行 い、9年間を見通した 学習活動の充実を図 る。
- ・様々な分科会を設置 し、広い視点から、課 題の探究を図る。
- ・相互の授業見学を通 し、課題改善に向けた 実践的な研修を行う。

授業改善策の検証方法

- ・校内研修で授業を参観し合うことで、授業改善策の成果を確認するとともに、相互に学び合う場を設定する。
- ・管理職が授業見学を行い、授業改善策の成果を各教員にフィードバックする。
- ・学期ごとに教科部会を実施し、内容別・観点別の分析を行い、授業改善策の成果と課題を検証し、次年度の計画に取り入れる。